

◇ 瀧野良枝

○議長（清水満） 発言順位6番、議席番号5番、瀧野良枝議員を指名します。瀧野良枝議員。

〔5番 瀧野良枝 登壇〕

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。通告のとおり質問をいたします。

それでは、移住対策についてお尋ねいたします。

3月議会において、同僚議員からも移住に関するホームページへの掲載方法などについての提案があったわけですが、私からもPRの方法についてお尋ねいたします。

現在、町の移住ページの中では飯綱町に住もうプロジェクトとして、住宅、土地のあっせん、就農のあっせんを図り、ワンストップサービスを目指すとあります。まちづくり推進課という名称が載っている等、データが古いようですが各種サポートがラインナップされています。

そこでお聞きいたします。ここでのPRの目的ですが、町として移住希望者のターゲット設定、どのような方が飯綱町に興味を持ち、そして移住してくださるのかというターゲティングは行っておりますでしょうか。お願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えをしたいと思います。ターゲット設定ということでございますけれども、具体的にターゲットを設定しているということではなくて、基本的に移住を希望される方、全てを同様に対応させていただいているというのが現状でございます。

ただ、中古住宅の購入ですとか、住宅リフォーム、また家賃助成など、町で各種補助、助成制度を設けておりますけれども、こういった対象者を40歳未満としておりまして、子育て世代、こういった方を主なターゲットとして施策を展開しているという実態でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 全ての方を同様にとということですが、どなたでもどうぞという場合には、どこの自治体にいっても同じということになる可能性もあるかもしれません。40歳以内ということを対象に補助金が行われているということで、子育て世代をターゲットにするというもの

良いかと思えます。

そして今、各地方自治体で移住大作戦が繰り広げられているわけですが、移住者が多い自治体、地域の活性化に上手に繋がっている自治体というのは、移住希望者が求めるニーズに合わせて何か新しいものを作り出してこうということよりも、元々ある地域の魅力をしっかりと認識して、プライドを持って見せていく、見せ方を意識してプロモーションが行われていると感じております。

では、飯綱町では何を見せていくのか。先ほどのホームページの中の住もうプロジェクトの図には町の特典情報ということでキーワードが列挙されています。これは、いわゆる町にとっての売りだと思えますが、自然環境、子育て支援、福祉医療、安全な食べ物など、かなり漠然とした表現になっています。

私が飯綱町の最大のコンテンツであると思うのは、ズバリここに住まう人です。PRにおいて単なるサービスメニューの列挙ではなくて、その先に人が見えてくる、温度が感じられる情報の見せ方が大切であると考えます。

飯綱町においては、移住用のパンフレットの作成はされていないということでございますので、ここで整備されることを提案いたします。このパンフレットですが、量産ではなくて、小まめに更新できるもの。情報というのはホットでないと、1つ古い情報が入っていたりすると、そこで気持ちが萎えてしまったり、他の情報も最新ではないのではないだろうかと思われてしまう可能性があります。

飯綱町のホームページ、例えば飯綱町に興味を持った時に一番アクセスしやすいのはホームページですが、ではそこには何を載せるのかということもしっかり意識をされることが必要かと思えます。

例えば、移住用のパンフレットを作成した際に、それをPDFとしてただ印刷できるように掲載するよりも、例えば概要だけを載せて、さらにもっと興味のある方には担当課へコンタクトを取っていただくという2段階構成も良いかと思えます。これだけこだわりを持ったパンフレットを作っているのです、是非、思いのある人に届けたいのですという意気込みがあっても良

いのではないのでしょうか。

担当課においては、パンフレットの請求の際にアンケート方式にして、ある程度の方の要望や、またマーケティングの要素を含めておいて、コンタクトを取ってくださった方はその後に興味のありそうなイベントがある時にはお知らせするとか、またお勧めの物件が出てきたら連絡を取るなど、継続的に個別対応をしていくというのも良いのではないのでしょうか。

では、町の売りという部分ですが、先ほどお話にありましたように子育て世代、またポスト子育て世代にとっては、飯綱町での自然保育に魅力を感じられる方も多いと聞いております。長野県が進める信州型自然保育「やまほいく」では、屋外活動を週5時間以上取り入れる普及型と、週15時間以上取り入れる特化型の2種類があります。町営の保育園は普及型ですが、同じ町内で「大地」さんが特化型として認定されておりまして、移住者の希望に合わせて選択の幅があるということも飯綱町の魅力の1つではないのでしょうか。

また、町内小中学校がコミュニティスクールとして地域とともにある学校であり、子どもたちを暖かい気持ちで見守り、本気で向き合ってください地域の方々がいること、また先般の中学校50周年記念事業に地域の方々の絶大なご協力があったとお聞きしましたが、そういった学校、子どもたちへの愛着の深さ、愛情の深さも町として誇れる部分ではないかと思います。

また、仕事と育児の両立面ですが、飯綱町にはワークセンターという他市町村に誇れる素晴らしい施設があります。先日、このPR動画がアップされていましたが、ママさんのインタビューなどを中心に人の思いというのが見えてくるとても素晴らしい内容でした。私も早速、自分のSNSでシェアをしましたところ、何人かの方から飯綱町は素晴らしい取組をしているというメッセージをいただきました。

また、働く保護者にとってありがたい取組の1つが保育園の時間外料金の一部無償化です。これも、ただ経済的支援が厚いという意味合いではなくて、なぜ無償になったかというところですが、飯綱町は長野市なども通勤圏内、通勤範囲内であるということを加味した上で、保護者の就職の選択肢を広げるという意味合いもあったかと思います。そういったことを伝えることによって、熱のある、思いの伝わるPRになるのではないかと思います。

また、同じく保護者にとって心のお守りとしてありがたい取組が病後児保育です。欲を言えば病児保育をお願いしたいところですが、病後児保育を町独自で持っているということで保護者が普段抱えている子育て中の不安感、負担感を町としてしっかり認識して受け止めて、そして保護者が心豊かに子育てできるセーフティネットを整えているという部分でも、保護者にとって心強く感じられる部分かと思えます。

お尋ねいたします。子育て全般において、飯綱町のストロングポイントは何だとお考えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私は、強くアピールし、強く実施している事業というのは、どちらかと言えばトータルで考えていくべきで、トータルでの評価がやはり重要だという考え方の中で、今の議員おっしゃるようなことを進めてきているつもりですが、決して小学校にあがる時にお祝いを申し上げるとか、奨学金で学校へ行ってもらおうというような、個々ではあるわけですが、それがストロングな部門かと言えば、はっきりしない答弁で恐縮ですが、みんなストロングの一部だということで、それが合体して大きな意味での強い子育て支援という形になっているし、これからもそういう方向で一層制度の充実を図っていきたいと思っています。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 続いてお答えいたします。飯綱町の子育てのストロングポイントということですが、市町村の規模などによって違うわけですが、飯綱町はこういう小さい規模ですので、実は教育委員会が保育、それから社会教育、生涯学習まで全部統括しています。

そういった意味では、「揺り籠から墓場まで」というのが1つの売りですが、そういう中で今、飯綱町の教育委員会として力を入れているのが、支援センターを新しく建設しようということです。それに向けて大事なものは、箱物も大事ですが、豊かな整った環境も大事

ですけれども、やはりいちばん大事な中身なので、その中身をどう充実させていくか、そこをこれからの飯綱町のストロングポイントにしたいと思っています。

具体的にどういうことかと言いますと、今、子どもが置かれている環境は都会と田舎の差が無くなってきていて、昔は遠い都会の出来事と思っていたことが、今は田舎でも同時進行で起こっています。子どもたちが都会と同じようにいろいろな危険、危機にさらされています。例えばメディアの問題にしても、いじめの問題が起きたり、いろいろな痛ましい事件が若者によって引き起こされたりしています。そういった問題は中学生になってから何とかしようと思ってももう手遅れです。それではどこまで遡るかというやはり幼児教育です。それも生まれる前からです。そこで、教育委員会としてはきちんとした教育プログラムを立ち上げて、子どもと一緒に保護者にも親として成長していってもらおうと考えています。そして、子どもの育ちを地域で支えていく、そういう活動の骨組をしっかり作っていきたいと思っています。

先ほど言われたように、いくら良いことをやってもPRがされていないと意味が無いというのはおっしゃるとおりです。今、教育委員会では、広報のいちばん最後の見開き2ページをいただいて、この春から子育て支援のページを設けています。いろいろな情報の中の1つに子育て情報があるのではなくて、「子育てについてこんなことやっているよ皆さん」というのを独立してPRしています。ホームページについても早速動画見ていただいてありがとうございます。そういったことを町内外に広めていきたいと思っています。ありがとうございました。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 先ほど町長からも入学のお祝い金がありますというお話がありましたが、例えば入学祝い金がありますと言うと、もしかしたら他の市町村でもあるかもしれませんが、飯綱町においては卒園、卒業の祝い金になっているということもポイントだと思います。

入学する時にお金が掛かるというよりも、入学する前に保護者の方は出費することが多いですよというところを含めた上で、卒園、卒業のタイミングであるというのも、本当にきめ細かな心の感じるところではないかと思います。

また、その他の支援もありますが、私は特に誕生記念品カタログに関しては、これ私自身が

提案させていただいたので特に思い入れが強いわけですが、誕生されたお子さんへの現金支給ではなくて、記念品になっている理由、これは行政のみならず町内の事業者の皆さんが子育て世代に思いをはせて記念品を考えてくださっているということです。町全体で子育てを応援しているという温かみが伝わるのだと思います。

私は常々、サービス、各種支援というのは、なぜ町がそれを提供するのかわかりやすい形での提供の仕方が大切だと思っております。単なる経済的支援だけではなくて、心的な支援、温度が感じられる施策が飯綱町では進められていると思っております。これは、子ども子育て応援会議など、保護者の意見を吸い上げて施策が展開されているからであり、子育て世代にとって十分魅力的なコンテンツであり、またポスト子育て世代にとっても子育てに夢を描ける、飯綱町へ移住するインセンティブに十分なり得るのではないかと思っております。

また、就農を目的に移住を考える人も多くいらっしゃると思います。新規就農者へのサポートについては、国や県の取組を含めても、かなり内容が充実していると感じておりますが、飯綱町で新規就農をしようとするモチベーションとなる一番の要素、売りは何だと思われますでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁させていただきます。まず、飯綱町で新規就農する際の一番の売りでございますが、しっかりと住宅が確保されているということだと思います。新規就農者住宅が今3棟ございまして、そこに非常に安価な金額で入ることができるということです。

あと、もう1つが青年等就農計画を立てて研修に入っている方については、認定農業者と同じように町の単独で農業機械の補助を出しております。こういったところもなかなか他には無いところだと思っております。

あとは、やはり農業を指導していただける里親という指導者の方が、今6人いらっしゃるわけですが、それぞれの分野で新しく入っていただいた研修生をしっかりと指導していただ

けるのも強みだと思っております。

あと、もう1点は、飯綱町につきましては、りんごについては地域ブランド化されておりました、りんごを主力として栽培するのであれば、非常に少ない初期投資で生活できるだけの収入を得られやすいといったこともございまして、実は飯綱町というのはIターンでこちらの方に来られて、新規就農される方は近隣に比べると非常に多いのが実情でございます。

あと、もう1点でございますが、町は今、相談から本格的な研修、そして新規就農に入るまでのしっかりとしたパターン化されたやり方がございまして、まず東京都内で相談をしていたら飯綱町に来ていただいて、そこでお試しの農業体験、そして農業体験が終わった後、面談、それを何度も何度も繰り返して、それで本当に飯綱町に来て農業ができるようになった方だけこちらの方に来ていただいて、本格的に研修に入っているようなシステム化がされているところが強みかと思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） いろいろ取組がされているということで、私も実際に新規就農された方にお話をお聞きしたわけですが、里親制度によって技術を習得できること、そして新規就農住宅が整備されていたことなどがモチベーションになったとのことでしたが、一番印象に残ったのが、移住をされた際にご近所へのあいさつ回りを一緒にしてくださった方がいて、とても心強かったとお聞きしました。どなたなのかと思って調べましたところ、役場の就農サポートの担当者だったそうで、本当に素晴らしいことだなと思って感激しました。

移住者にとって、地域に入っていくことはかなり不安が多いと思うわけですが、そこで職員が親身になって対応してくださる。例えば、「担当者が熱い」というコーナーを設けてPRしていく、これも十分魅力的なコンテンツになるかと思えます。本当に感動しました。

そして、第2次総合計画では、昨日からもずっとお話も出ていますが、「日本一のりんごの町」がテーマの1つであります。先日の町長の答弁で、農業は単なる産業ではなくて文化であり、また健康、教育に繋がっていくものというお話をお聞きしました。

私自身、「日本一のりんごの町」というテーマを、町民がそれぞれデザインしていても良い

のではないかと考えています。私が総合計画の策定に携わらせていただいた際に、その時の委員長がおっしゃった言葉がとても印象的だったわけですが、「日本一のりんごの町」というのを日本一りんごにこだわる町と捉えるのも面白いのではないかとということです。これについて、その時本当に納得したわけですが、りんご農家が多くて研究熱心な農業者の方も多し。また、町民自身が飯綱町のりんごはおいしいと自信を持っている。確かに日本一りんごにこだわる町になり得るだろうと考えています。

日本一というテーマが、何をもって日本一なのかと町民の方から質問を受けることも多いわけですが、町民自身が例えば自分の思うこだわりを持ってこのフレーズを編集して育てていく。例えば、「日本一りんごを語れる町」とか、りんごを通してその先に人が見えてくるというテーマ、また農業に携わってなくてもこのテーマに気持ちを寄せることができる、そういったテーマ設定にもなるかと思いますが、これについては町長いかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） それは面白い発想だと思います。私のところにも当初「日本一のりんごの町づくり」というタイトルを上げたら、生産量か、味なのか、品質なのかというふうにこだわって、そんなの端から飯綱町が日本一になるわけ無いという、少し残念な電話もいただいたりしました。

そうではなくて、りんごというのはいろいろな意味の繋がりをそれぞれの人が考えてもらえれば良いという話で、正しく今、それぞれの人がりんごの栽培をしていない人も含めてデザイン化したものを持つというのは、本当にそれこそ「日本一のりんごの町」に近づけるのではないかと考えて、今そんなこと思いました。

非常に良い考え方の一端をお聞きしましたもので、そのようなものを全体にどういうふうに活かしていけば良いのか研究してみたいと思います。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 就農以外の就労サポート、起業へのサポートなどについては、時間があ

ましたら後ほどお伺いします。

そして、移住に向けて動いていくとなるとアプローチの方法としては、移住体験ツアーに参加をする、移住体験住宅に宿泊するといった方法があるかと思いますが、移住に向けての最大のチェックポイントは、冬の特性を知ることであるかと思います。

スローライフに憧れていたけれども、冬の雪かきや雪下ろしが思いのほか重労働であったり、漠然と田舎は生活コストが掛からないと思っていたら、暖房費が意外に生活費を圧迫したり、雪道の車の運転が実は必須でそれが難しい、大変だと感じている方も多いと聞いております。

また、公共交通の利便性であったり、住んでみたらイメージと違ったり、これはどこの自治体でも起こり得ることです。ここでも等身大の姿を見せていくことが大切であるかと思うので、パンフレットには例えば金銭的なデータなど、年間の暖房費は平均4人家庭でこうですとか、そういったデータなど役に立つ情報を載せていただくことが良いのかと思います。

先ほど新規就農住宅が充実しているというお話しましたが、いずれにしても賃貸できる物件、空き家情報が不足しているということで、町のホームページにはいまだに移住のページに空き家情報をお寄せくださいと書かれております。空き家情報不足への対応、改善は行われましたでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 先ほどの町の特典情報というところでご指摘をいただきましたので、少しその部分からお話をさせていただきたいと思いますが、議員、ホームページをご覧になられたかと思います。

特典情報ということで、他の地域と比較した際の飯綱町の魅力を特典情報として載せているところがございますけれども、具体的に先ほどお話もありましたけれども、大変ホームページの情報が古くなっておりまして、私どももその辺は見直しをしていかなければいけないと感じているところがございます。是非、早急にその辺はご指摘、ご提案いただいた内容に沿って具体的な表記にしていけたらと思っているところがございます。

今の空き家情報の関係でございますけれども、昨年も少し空き家の情報というのは整備をさせていただいておりますし、今年も予算等の時にご説明をさせていただいておりますけれども、たまたま地図のゼンリンさんが全棟調査をやる時期だということで、それに合わせましてゼンリンさんの方に委託をして、空き家の再調査を進めているところでございます。

こういった形で空き家情報の収集を進めているところでございますが、やはり条件の良い物件については、町を介さずに売買、賃貸が行われております。こういった物件についてもできるだけ町内の民間業者さんと情報共有をさせていただいて、さらなる空き家情報の充実には努めてまいりたいと思っております。

空き家情報が町のホームページに載っていないという点でございますけれども、空き家バンクのシステムにつきましては、県の楽園信州のものを利用させていただいております、これにつきましては町のホームページともリンクをしております。これは無料で利用できますし、宅建協会さんもきちんと入っていただいて、相談に乗っていただけるような仕組みのもので、当面これを活用しながら充実するような方法を進めていきたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ホームページに対して早急に対応していただけるということでしたが、空き家バンクの登録に謝礼金制度を設けている自治体もありますので、各自治体の取組を参考にさせていただきまして、私も楽園信州のホームページを見ましたが、飯綱町の物件というのは、1件あったかないかというところだったかと思えます。

とにかく、まずホームページを見た時に、第一印象として飯綱町には住む場所ないのではないかという印象を与えない取組を早急に行っていただきたいと思えます。そして、住宅情報の提供も大切ですが、実際に移住してみたら、自治会費が思ったより高かったと驚かれた方もいらっしゃるからお聞きしました。確かに町内でも住む場所によって、区費、組費に金額の差もありますし、公民館活動など人付き合いの濃淡と言いますか、それぞれ特徴があるかと思えます。この辺りも担当課としては移住希望者に情報提供できる準備というのは整っているのでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。基本情報的なことかと思えますけれども、閉校となりました両小学校の跡地活用にあたって、以前に周辺の住環境ですとか、自然環境、また医療体制ですとか、先ほどご指摘のあった子育て応援施策、また移住応援施策などまとめたチラシを作成したような経過もございます。ホームページなどでは公表はしなかったわけですが、ただ、これでは今の議員がおっしゃるような基本情報として不足している点もございますので、今後、先ほどお話のありました移住者向けのパンフレット、こういったものも併せて作成などしていきたいと思っておりますし、こういった中できちんと紹介をさせていただきたいと思えます。今申し上げたとおり、基本情報としては担当課としても不足している点があるというのが実情ですので、しっかりまたその辺の把握はしてまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 基本的な情報というのをパンフレットなどに載せるというのも良いと思えますし、例えば先ほどの区費、組費の辺りというのは、オープンにしないで担当者が持っている情報として、だいたいこの辺りはこれぐらいです、例えば運動会に参加しているかしていないかとか、だいたいこんな年代の方たちがこの辺りにいらっしゃいます、移住者がこの辺りに多いですよ、その程度の案内でもかなり安心する材料になるのかと思えます。

そして、次にふるさと回帰支援センターでのプロモーションについてお伺いします。6月にふるさと回帰支援センターに調査に行つてまいりましたが、センターにはそれぞれ市町村のボックスがあり、そこから自由にパンフレットをもらえるようになっております。飯綱町のボックスを見ましたところ、いわゆる一般的な飯綱町の観光パンフレットとオーガニックリゾートの案内のみが入っていました。

センターの29年度の事業報告によりますと、東京のふるさと回帰支援センターへの問合せや来訪の総数は3万4,891件、前年度比26パーセント増とのことで、首都圏に住む方の移住への

関心というのは年々高まっていると思われます。ちなみに銀座駅すぐ近くの一等地にあります銀座NAGANOへも参りましたが、3階には同じく各自治体のPRボックスがありますが、そちらでの飯綱町のPRはおいしいりんごとおいしい田舎という、主にりんごについて書かれたリーフレットが置かれていたのみでした。

もちろん移住希望者が銀座NAGANOに直接行くとは考えにくいわけですが、1階のショップで長野県産の物を買ったり、2階の観光パンフレットを調達したりするというのは、長野県に興味がある方、出身者かもしれませんし過去に関わりがあった方、これから関わりたいと考えている方の可能性も高いと思います。実際に私がいる間にも、県内出身の方が数人でいらして自分の故郷の自治体の案内を探して、新規就農の案内が充実していたようでかなり話が盛り上がっていました。

今定例会の担当課長の答弁でも、就農相談を活発的に行って首都圏でのPRの効果が表れているとしておりましたが、銀座NAGANOを含め、ふるさと回帰支援センターでのPRについて、もう少し力を入れて、人口減少待ったなしの今、どのような可能性も食欲に追い求めていくべきかと思いますが、こちらでのPRについてはいかがでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。議員が実際に行っていて、調べていただきまして、我々もなかなか知らないようなことまで今回ご指摘をいただきまして大変ありがとうございます。

そんな中でふるさと回帰支援センターの有効活用なり、銀座NAGANOというお話でございますけれども、ふるさと回帰支援センターにつきましては、年会費5万円ということで、町も会費を負担していますし、この有効活用を進めていかなければならないと思うところがございます。

今、ご指摘のありましたとおり通常の観光用のパンフレットを置いていたりしているところでございますけれども、センターのホームページをご覧くださいますと、飯綱町も会員という

ことで、その会員のホームページにもリンクしているなどのメリットがあろうかと思っております。また、別に会費とかの負担が必要になるかもしれませんが、ポスターの掲示であったり、さらなる資料の置く場所を確保していただいたりできるのであれば、また相談をしていくなり、予算を確保するなり、対応をしていきたいと思っております。

ふるさと回帰支援センターにつきましては、長野県については2名のスタッフの方がご相談に応じる体制をとっていただいておりますので、今申し上げたようなところの充実を図りながら、ふるさと回帰支援センターのさらなる有効活用には努めていきたいと思っておりますし、銀座NAGANOにつきましても、今、新規就農者等のご指摘をいただきましたので、産業観光課とよく話をしまして、是非そういったところも有効に活用してまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） センターの契約については年間5万円ということでしたが、確か追加でやってもらうとなるとかなりの金額が必要になりまして、費用対効果ということを考えると、そこまではまだいく段階ではないのかなという実感を持っています。センターの担当者の方ともお話をしましたが、例えば季節的なイベントの案内を送ってもらえば、ブース横のいろいろなリーフレットが置かれている場所、特別な場所に掲示していただけるということで、センターへの追加のPR料金を支払わずして良い宣伝をしていただけるようでございます。

このイベント案内も、何も移住者向けのイベントでなくても、町民向けの地域の良さを知るイベントなどの案内は、これは共有しても良いのではないかと考えます。センターとの連携をより一層密にさせていただきまして、効果的なPRを心掛けていただきたいと思います。

そして、他市町村でも移住用のパンフレットに本当に工夫をされていると、そのセンターで拝見してきたわけですが、興味を持って訪れる、住んでみるという流れの中で、ストーリー性のあるPRパンフレットができると良いのではないかと思います。今、どの自治体でも移住、定住対策としていろいろな支援策をメニュー展開していますが、例えばどこが一番お祝い金は高いなどと、項目を並べられて選ばれるのではなくて、飯綱町にしか無い価値を見いだしてい

ただ、関わりを持っていただくことが大事ではないでしょうか。

例えば、新規就農、先ほど里親制度のお話もありましたが、受入を行ってくださる町内の里親の皆さんの顔が見えるということ。ストーリー性のあるユニークな人材も多いと思いますので、そういった方たちをコンテンツにして、「この人に会いたい」「この人に学んでみたい」と思える人との繋がりというのも効果的であるかと考えます。

「ソトコト」という雑誌がありますが、この雑誌によると観光案内所ではなくて、関係案内所、町に暮らす会いたくなるような人を紹介して、繋がりを生んでいく、関係と縁を案内する場所や空間が大切であるとしています。これがZQ（ズク）、若しくは小学校跡地活用で行われることを期待します。

また、移住を考えた時に一番頼りになるのが先輩移住者の意見ではないでしょうか、100 PROFESSIONAL PEOPLE も移住者のライフスタイルの参考に十分なるかとは思いますが、自治体によって、は先輩移住者がナビゲーターとして有料で1日町内を案内して回るという取組をしているところもあります。飯綱町においても個人的に、また民間の企業で行ってくださっているところもあるかと思っています。

移住者の受皿づくりと同時に、移住者の孤立を防いでいく、移住後のサポートの仕組みも作る事が大切であると考える中で、町として既に移住された方がどこに価値を見いだして来てくださったか。実際に住んでみて例えばどんな部分に不具合があるのか。アンケート調査などを実施して、その内容によって移住後のサポート体制の強化を図るということも重要であると考えますがいかがでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。アンケートということでございますけれども、アンケートにつきましては、今も転入された方に窓口で一定のアンケートをさせていただいておまして、アンケートをしていただくと若干の特産品のプレゼントなどもしている状況でございます。ただ、この内容ですと少し不足している部分、議員ご指摘の部分等も不足し

ている点かと思えますけれども、不足している部分がございますので、今、少し見直しをしているところでございます。

いずれにしましても、そのアンケートによりまして移住者の意向ですとか動向等、的確に把握することは不可欠であると認識をしているところでございます。調査等の実施によりまして移住満足度を向上させるとともに、移住に際しての課題等の整理、解決に繋げていくためにと  
いうことで、効果的なアンケート実施に向けた制度設計、運用等を検討していきたいと思っております。

また、先輩移住者というお話もございましたけれども、ZQ（ズク）につきましては、そこを中心に移住コンシェルジュという機能も設けることを元々計画しているところでございますが、若干、その辺も遅れておりますけれども、先輩移住者の実体験、そういった方がコンシェルジュとなっただけのが非常に良いのかと思っております。こういったことも引き続き進めてまいりたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 移住者に向けてのアンケートは、今、実施されているということでございますが、これも移住者の方に町に対してクレームを言ってくださいというのではなくて、この次に来る移住者の方のために、どうぞ情報を提供してくださいというスタンスで、忌憚のない意見を出していただける雰囲気的大事であるということと、その後の分析が一番大切であると考えます。是非、いろいろな場を設けて、移住者同士のネットワークづくりというものも、町としても積極的に行っていただきたいところでございます。

そして次ですが、交流人口並びに関係人口へのアプローチについてですが、現在もりんご学校の開催、農家民泊、農業体験などが行われておりますが、今後の展開についてお聞かせください。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。今後の展開ということでございますけれ

ども、現在、地方創生の推進交付金の3事業でございますけれども、1つは世界に誇る力強い産業形成事業、またしごとの創業・交流拠点整備事業、もう1つは自然の中の暮らし魅力創造発信事業、これら3事業におきまして、交流人口、関係人口づくりに向けた施策展開とアプローチということで実施をしているところでございます。

今、議員もおっしゃられたとおり、都市部で開催しておりますりんご学校や農泊など、これらを通じまして観光客等の交流人口や地域との繋がりを持つ関係人口の増加に向けまして、特に世界に誇る力強い産業形成事業などは進めているところでございます。

また、今後につきましては、残りの2事業でございますけれども、それぞれ小学校の跡地活用が本格化していく中で、さらにそういった交流人口ですとか、関係人口、こういったものの増加に向けてしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） まずは身近な関係人口である町外に住んでいる親族へのアプローチというのも大切であるかと思えます。

住民の方からのご意見で、出産である程度の一定期間里帰りをしていた娘さんが、上のお子さんを連れて子育て支援センターを利用したいと思ったけれども、町内在住でないと利用できないと残念がっていました。是非、ここでの孫利用と言うのでしょうか、ご検討いただきたいかと思えますが、これについて可能性はいかがでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 子育て支援センターの関係でございますけれども、今、議員さんがおっしゃられたお断りしたかどうかというところは、把握してございませんけれども、今は専用の施設がございませんので、町民会館で行っているというところで、積極的に町外者も良いということはPRしてございません。里帰り出産でお孫さんを連れて来られる方も例があるということですので、積極的に使用していただければと思っておりますが、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ありがとうございます。みんなが飯綱ファミリーである。地元を愛して飯綱町はこんなに良いということをどんどん外に発信してくださいというスタンスが良いのではないかと思います。

例えば、都会暮らしをしている町内出身者の方の力を大いに活用する。イベント情報など、地方から発信するよりも都会にいる人の方が発信力は強いのは当たり前かと思えます。情報発信をしていただくという地域貢献の担い手としても良い関係を築いていくことが大切かと思えます。

また、飯綱町PRキャラクターの「みつどん」ですが、私も個人的に可愛いと思っております。同じく飯綱町商工会キャラクターの「りっぷる」もとても可愛い、ご当地キャラクターの中ではかなりレベルが高いものだと思っております。

例えば、この「みつどん」の活用についても、ゆるキャラグランプリに応募して、町民や町内出身者と一緒に応援をして盛り上がったり、またLINEのスタンプを作成したりしてPRすることによって、遠くにいても飯綱町に関わりたい人は関われる入口、地域との繋がりを持つ取組の1つになるかと思えます。「みつどん」の活用についてはどのような展開を考えておりますでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、ゆるキャラのグランプリの関係ですけれども、これまでエントリーをしたことはないわけですが、毎年7月頃までエントリーの受付を行っておりますので、来年は是非、「みつどん」をゆるキャラグランプリにエントリーしたいと思っておりますので、何とかこのグランプリに合わせて皆さんに人気が出るような事業を行っていきたく思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） このゆるキャラグランプリですが、私は山ノ内町出身ですが、山ノ内町の「シガ公」というキャラクターですけれども、これがゆるキャラグランプリに出た時に、私は

山ノ内町のページもフォローしているので、是非、応援してくださいとくる。また、同級生の中からもそれをシェアしてくるという情報の広がり、何かみんなで心が繋がるというのでしょうか、一緒に応援するという取組の1つにもなる、本当に「シガ公」から比べると「みつどん」はとても可愛いと思っています。

以前、県外の方に言われたのが、飯綱町のお土産としてキャラクターの物が欲しいと言われたことがあります。「みつどん」のキャラクターとしての需要というのは、大いにあると思っています。

また、関係人口については、都会暮らしをされていて定年退職し、田舎に戻りたいと思っても、その時の家族の状況などによってそれが叶わない。でも何か地元へ貢献したいと考えるシニア世代の方も多いと聞いています。そういった皆さんが、ふるさと納税などによって地域貢献をしてくださるという形もあるかと思いますが、こちらについては継続的に今度繋がっていく仕掛けづくりが必要であると思います。

また、都会に住む若者も地元へ貢献したいという気持ちが強く、実際に都会にしながら地域、地元の特産物の発信や地域に新しいアイデアをもたらすといった活躍をしている方も多くいらっしゃいます。

実は都会の若者を中心とした関係人口について、いつかは定住してくれるだろうという、いつかは定住というのをゴールにしてしまうことによって、若者の中にせっかく芽生えた小さな関心の芽を潰してしまうケースがあるというお話も聞きました。

先日の公民館講座でNPO法人青春基地の石黒和己さんが話されていた内容がとても印象的で、子どもは地域課題解決の担い手では無いんだ、また小布施若者会議などで町づくりに尽力されている藤原正賢さんのお話では、若者を戻すのではない、戻りたくなるほど自分たちが地域を楽しむことが大事だとおっしゃっていました。

ちなみに、私は情報発信や情報収集を先ほど申し上げましたように、主にSNSを使って行っているわけですが、私一町民の記事に多くの方が反応してくださる。例えば、この景色好きだなと思ってその写真をアップすると、県外の方から素晴らしい景色だね、これどこですかと

興味を持ってくださる。そんな小さな取組でも、関係人口の入口を作ることができると考えています。

ちなみに、先日小学校の長女が学校で家の冷蔵庫を見て、野菜などの産地を調べるという宿題があったわけですが、我が家の冷蔵庫には袋に入った野菜などありませんでした。家庭菜園の物やご近所からいただいた物ばかりという安心して食べられるお野菜がある。野菜室を開いてもフルーツ盛りだくさん、フルーツの種類が多くて、そしておいしい。米もおいしい。

先日驚いたのが、長女が突然、「飯綱町は特A米だよ」と言って、本当にいろいろなところで子どもたちもプライドを持っている。改めて環境のありがたさを実感して、県外の方にお伝えしたわけですが、本当に羨ましがられました。当たり前を実感してその良さを発信していくことは、本当に大切だと思いました。

移住対策や関係人口づくりというのは、役場の担当者や担当課だけが担うのではなくて、町民全員がPR大使になれる。町民こそが生の声を発信できるPR大使にふさわしいと思います。町民ライターという取組も行われておりますが、そこまでいなくても、例えば、「町外の人に飯綱町のパンフレット見たら、子育て環境こんなふうになっているんだよ、飯綱町はどうなっているのと聞かれた時に自信を持って、これもこれもあるということを伝えられる材料という意味でも、PRポイントをしっかりまとめておくということは重要な意味を持つかと思います。

これらをコンサルタントに頼り過ぎることなく、町民が自らPR大使として、すなわちプレイヤーとして関わっていくという点に関して、これについて町としてある程度の仕掛けが必要になるかと思うわけですが、これについてはいかががお考えでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。良いご意見をたくさんいただきまして本当にありがとうございます。今、「いいいい いいづな」という形でホームページを展開させていただいておりますけれども、先ほど議員がおっしゃったように町民ライターの方に記事を書いていただくなど、そのような取組もしておりますので、さらに充実させながらしっかり取り

組んでまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 私も総合戦略に関わらせていただいたという立場上、企画課のイベントはほぼ見に行くようにしているわけですが、残念に思うのが、町民の皆さんは案外同じ方がいらしている。もう少し町民自身が関心を持っていくという喚起が必要ではないかと考えています。

時間があるようですので、就農以外の就労サポート、起業などへのサポート体制について、今後の展開をお聞かせください。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。就農以外のその他の職種の就労サポートということでございますけれども、この辺につきましては主にはハローワークの情報提供ですとか、連携中枢事業における「おしごとながの」、こういったものの活用等により行っているというのが現状でございます。

移住される方は、やはり一番は住む所、仕事というところがございますので、良い仕事がありますかと言われたような時には、もう少しうまく応えられるようなものもしっかり構築していけたらと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） いろいろな施策が展開されている中で、担当課におけるワンストップの窓口というのはとても大切ですが、逆の方向、各課においてもある程度の関連事項についての把握ということに尽力されるということを期待いたします。

移住者へのPRを考えながら、町に住む人が改めて地域の魅力を再発見して、自信を持って、そのパワーがいろいろな人を巻き込んでいく、そんなスパイラルを期待いたしまして、私の質問を終わりにします。

○議長（清水満） 瀧野議員、ご苦勞様でした。

暫時休憩に入ります。再開は10時5分とします。